

第1節

まちづくりの主役である

「ひとづくり」

子育て

教育

スポーツ・文化

男女共同参画・平和・人権

(1) 子育て ～子どもの成長を育むまち～

ア 一人ひとりの育ちを大切に環境づくり

施策の概要

子どもたちの健やかな成長、発達を支援する環境づくり、放課後の子どもの居場所づくりに取り組みました。

施策の成果

こども発達支援センターは、引き続き保育所・保護者・保健師などとの連携に努め、発達に課題のある子どもたちの早期支援体制の充実を図りました。

また、放課後の居場所づくりを通じて、子どもたちの安全・安心が確保され、地域住民との交流も図られました。

事務事業の実施状況

■ こども発達支援センター運営事業（子育て支援部）

健診などで発達面に心配のある乳幼児を早期に発見し、発達に関する相談（運動・言語・心理など）や親子通所教室での指導が受けられる支援施設として、こども発達支援センター「すまいる」を開設しています。日常生活への適応などについて、早期の支援を行う通所教室では、楽しい遊びを取り入れ、小集団の中で心身の発達を促すとともに、保護者が子どもへの理解と認識を深め、子育ての不安を軽減できるように支援を行いました。

また、保育の中での発達支援の充実をめざし、専門講師による保育所などの巡回相談を行いました。さらに、保育士・保健師などの専門職を対象にした研修会を開催し、児童や保護者への適切な対応などについて理解を深めスキルアップを図りました。

■ 放課後子ども教室事業（教育委員会）

小学校1年生から6年生までの児童を対象として、放課後や春、夏、冬休みなどの学校休業日に、勉強やスポーツ・地域住民との交流活動などを行い、子どもたちが心豊かで健やかに育まれる場として、放課後子ども教室を開設しています。

市内10ヶ所（河内・粟屋・布野・作木・川地・青河・田幸・川西・君田・小童）で、住民自治組織などへ運営を委託して行い、地域住民が直接子どもたちに関わることで地元で根付いた活動となりました。新型コロナウイルス感染症対策のため、小学校の休業時に休所する教室や、3密を避けるため予定していたプログラムの中止などもありましたが、各教室で工夫し、工作教室やスポーツ活動、落語などの個性的な学習プログラムを企画し、子どもたちの可能性が広がる取組が行われています。

■ 放課後児童健全育成事業（教育委員会）

保護者が就労などにより昼間留守にする家庭の小学校1年生から6年生までの児童を対象として、放課後や土曜日、春、夏、冬休みなどの学校休業日に、家庭に代わる生活の場として、遊びを中心とした活動を行う放課後児童クラブの運営を行い、子どもたちの健全な育成を図りました。

新型コロナウイルス感染症による小学校休業にともない、放課後児童クラブにおいて、原則、保護者が仕事を休めない場合等で、自宅等で一人で過ごすことのできない児童を対象に受入れを限定

して開設しました。このため特例措置として、放課後児童クラブ保護者負担金を、令和2年3月分に引き続き4・5月分についても免除しました。

施設整備では、令和2年11月に吉舎放課後児童クラブを吉舎町拠点施設内に移転したほか、八次こども集会所の整備に向けて実施設計を行いました。

<放課後児童クラブの年間平均利用児童数>

(単位：人)

放課後児童クラブ名	定員	児童数
三次小学校第1放課後児童クラブ	45	39
三次小学校第2放課後児童クラブ	45	39
十日市第1放課後児童クラブ	80	60
十日市第2放課後児童クラブ	40	30
十日市第3放課後児童クラブ	40	31
十日市第4放課後児童クラブ	40	32
神杉放課後児童クラブ	35	20
酒河第1放課後児童クラブ	40	29
酒河第2放課後児童クラブ	40	22
八次第1放課後児童クラブ	45	33
八次第2放課後児童クラブ	40	35
八次第3放課後児童クラブ	30	22
八次第4放課後児童クラブ	45	32
八次第5放課後児童クラブ	30	27
八次ふれあい放課後児童クラブ	40	33
和田放課後児童クラブ	35	26
吉舎放課後児童クラブ	40	21
三良坂放課後児童クラブ	40	23
三和小学校放課後児童クラブ	35	24
甲奴放課後児童クラブ	40	28
ちゅうおう放課後児童クラブ	55	48
計	880	654

<小規模型放課後児童クラブ事業補助金交付対象クラブ>

1ヶ所(八幡)

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

■ 第2期三次市立保育所規模適正化推進計画（後期）の策定（子育て支援部）

「第2期三次市立保育所規模適正化方針」に基づき、平成30年に策定した前期計画の計画期間を1年前倒して、「第2期三次市立保育所規模適正化推進計画（後期）」（計画期間：令和2年度から令和5年度まで）を策定しました。

規模適正化対象保育所の河内保育所について、保護者や地域の皆さんとの議論を進めています。

■ 障害児保育事業補助金（子育て支援部）

三次市子どもの未来応援宣言の一人ひとりを大事に支援していくという方針に基づき、民間委託保育所・認定こども園に対して、障害児などに対する支援保育士の人件費を助成し、職員体制整備の保障を行いました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
こども発達支援センター運営事業	26,176	国県支出金 152 その他 32	25,992	開設日数 243日 利用延人数 3,254人
放課後子ども教室事業	20,448	国県支出金 6,996	13,452	10ヶ所 加入者 163人
放課後児童健全育成事業	149,218	国県支出金 87,678 その他 21,869	39,671	放課後児童クラブ （公営20ヶ所, 委託1ヶ所） 利用者数 654人 小規模型放課後児童クラブ 事業補助金交付(1ヶ所) 利用者数 10人
第2期三次市立保育所規模適正化推進計画（後期）の策定	46		46	委員報酬
障害児保育事業補助金	15,911		15,911	保育所 3所 認定こども園 1園
計	211,799	116,727	95,072	

イ 子育てしやすい家庭環境づくり

施策の概要

ネウボラみよし（三次市妊娠・出産・子育て相談支援センター）を中心とした、妊娠前から妊娠・出産・子育て期まで切れ目のない支援に取り組むとともに、新型コロナウイルス感染症に対応したデジタルツールを活用し、新たな妊産婦や子育て支援等に取り組みました。

誰もが安心して産み育てることのできる総合的な子育て支援として、妊娠から出産、子育てにかかる費用について助成し、経済的負担や子育てに対する不安感の軽減につながりました。また、多様な子育て・保育ニーズに対応したサービスの充実を図り、子育てと仕事の両立をめざして、総合的な子育て支援体制の整備に取り組みました。

施策の成果

医療費助成のほか保育利用料などの負担軽減制度や、子どもの年齢に応じた様々な子育て支援策の実施など、子どもを安心して産み育てることのできる環境づくりを進めました。

子育てと仕事の両立を支援するために、延長保育や病児・病後児保育、土曜日午後保育を拡充するなど、様々な保育サービスを提供するとともに、保育所の施設改修などを行い、保育環境の充実を図りました。特定不妊治療・不妊検査・一般不妊治療・不育治療費助成事業を行い、不妊治療と不育治療の負担軽減につなげました。

妊娠期から子育て期を通して安定した養育支援環境を確保するため、「ネウボラみよし（三次市妊娠・出産・子育て相談支援センター）」を中心とした、妊娠・出産・子育てに関する多数の相談支援を行いました。また、コロナ禍における産前・産後ヘルパー派遣事業及び産後ケア事業の充実を図ることで、妊産婦の不安や負担の軽減につながりました。

事務事業の実施状況

■ こども医療費助成事業（子育て支援部）

18歳までの子どもに対して、一部負担金を1医療機関につき通院500円（月4日まで）、入院500円（月14日まで）とし、補装具、院外処方薬剤は無料とする医療費助成を行いました。子どもの疾病の早期発見及び治療を促し、子どもの健やかな成長と、子育てに係る経済的な負担の軽減につなげました。

■ （新）新型コロナウイルス感染症緊急経済対策に係る子育て世帯への臨時特別給付金（子育て支援部）

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子育て世帯を支援する観点から、児童手当を受給する世帯（0歳～中学生のいる世帯）に対し、対象児童一人あたり1万円の臨時特別給付金を給付しました。

■ （新）子育て応援金事業（子育て支援部）

コロナ禍の子育て世帯生活支援策として、児童手当を受給する世帯に対し、対象児童一人あたり1万円を市独自で支給しました。子育て世帯への臨時特別給付金に併せて支給し、子育て世帯への経済的支援を図りました。

■ (新) 新型コロナウイルス感染症緊急経済対策に係るひとり親世帯臨時特別給付金（子育て支援部）

新型コロナウイルス感染症の影響により、子育てと仕事を一人で担う低所得のひとり親世帯については、心身等に特に大きな困難が生じていることを踏まえ、児童扶養手当受給世帯等に対し、一世帯あたり5万円、第2子以降一人につき3万円を給付しました。令和2年8月と12月の2回、452世帯を対象に給付しました。

■ 妊産婦健康診査助成事業（福祉保健部）

妊産婦の健康管理の充実及び経済的負担の軽減を図るため、妊婦一般健康診査検査券（1回）、妊婦一般健康診査（14回）、子宮頸がん検診（1回）、クラミジア検査（1回）、妊婦歯科健診（1回）、産婦健康診査（2回）の費用を助成しました。

産前から産後までのほぼ全ての定期健康診査の助成を行い、妊娠や出産にかかる経済的負担を軽減し、妊産婦の健康管理の充実を図ることにより、妊娠届の早期提出や産後うつ予防のための早期支援につながりました。

■ ネウボラみよし事業（妊娠・出産・子育て相談支援センター）（福祉保健部、子育て支援部）

ネウボラみよしの拠点を市役所東館2階とし、サテライト3ヶ所（地域子育て支援センター）では保育士、保健師、助産師などが相談対応し支援体制の充実を図りました。妊婦全戸訪問、産後ケア事業、産前・産後サポート事業、産前・産後ヘルパー派遣事業、パパママ教室などを行い、妊娠期から子育て期を通して安定した養育支援環境の確保に努めました。地域では、母子保健推進員をはじめ関係機関との協力、連携により地域で子育て家庭を見守る環境づくりに取り組みました。

コロナ禍の妊産婦支援として、妊産婦にサージカルマスクと消毒薬を配布し、感染対策への支援を行いました。また、里帰り出産が困難であるなど周囲からの支援が得られにくい妊産婦への支援を図るため、産前・産後ヘルパー派遣事業及び産後ケア事業利用料を無料化し、産前・産後ヘルパー派遣事業においては延利用件数が昨年度より198件増加しました。あわせて、オンラインでの相談や「オンラインおしゃべり広場」の開設を行い、外出に不安を感じている保護者への支援を行いました。

また、多胎育児の支援として、新たに「双子の集い」を開催しました。



ネウボラ拠点オンラインおしゃべり広場



双子の集い

■ 不妊治療費・不育治療費助成事業等（福祉保健部）

特定不妊治療（体外受精及び顕微授精）、不育治療費に要する費用に対し、県助成額を除いた費用の全額助成を行いました。不妊検査・一般不妊治療については、県助成額を除いた費用の2分の1を助成しました。経済的負担の軽減を図ることにより、安心して治療を受けることができる環境づくりや子どもを産みやすい環境の拡充に努めました。

■ 地域子育て支援センター運営事業（子育て支援部）

公営3ヶ所、民営4ヶ所の地域子育て支援センターを拠点として、子育て相談、遊びの場の提供、子育て講座などを行いました。また、北部・南部地域においても交流の場を設け、子育てミニイベントや子育てに関する相談などを行いました。

「ネウボラみよし」のサテライトである、あそび工房、北部あそびの広場、三良坂地域子育て支援センターでは、保健師や管理栄養士の巡回相談による専門的な相談や支援を行いました。

また、コロナ禍で外出を控えている子育て世帯への支援として、県が配付したタブレット端末を活用し、「オンラインおしゃべり広場」の開催や子育て相談を行いました。



ネウボラサテライト 巡回相談の様子

■ こどもの「遊び」推進事業（子育て支援部）

季節や天候に左右されず、親子が安心して遊べる場所「三次市こどもの室内遊び場（みよし 森のポッケ）」を運営し、親子のふれあいと、木のおもちゃを中心とした木育を推進しました。

また、おもちゃの模様替えや「KAPLA®ブロックにチャレンジ！！」などのイベントを開催し、リピーターの確保に努めました。



木の玉プール



マルシェエリア



赤ちゃんの部屋

■ 保育の充実（子育て支援部）

保護者の就労や疾病などにより保育を必要とする乳幼児に対し、多様な保育ニーズに対応した保育を行いました。養護と教育が一体となった保育を進め、健康で豊かな人間性を持った子どもの育成に努めました。また、安心して預けられる保育所とするため、施設の衛生面や利便性の向上のための環境改善などに取り組みました。

新型コロナウイルス感染症拡大に際し、令和2年4月13日から5月31日まで、通所の自粛をお願いしました。保育所の開所時には、マスク着用や検温、定期的な消毒・換気を行うなど、最大限の感染予防に努め、運動会・卒園式などの各種行事は、規模を縮小・短縮して実施しました。

■ 多子世帯保育利用料（保育料）軽減制度（子育て支援部）

保育所・幼稚園・認可外保育所に通う第2子目の保育利用料（保育料）を半額、第3子目以降の保育利用料（保育料）を無料にし、多子世帯の保護者の経済的な負担軽減を図りました。

■ 副食費軽減事業（子育て支援部）

保育所・幼稚園などに入園している乳幼児に対する副食費を軽減し、子育てに係る経済的な負担の軽減を図りました。

■ 病児・病後児保育事業（子育て支援部）

病児・病後児保育室「すくすく」を市立三次中央病院内に、病後児保育室「おひさま」を酒屋保育所内にそれぞれ開設し、病気の回復期に至らない時期からの児童の看護及び保育を行い、保護者の子育てと仕事の両立に向けて支援しました。

■ 風しん予防接種（任意）費用助成事業（福祉保健部）

妊婦が風しんにかかると生まれてくる赤ちゃんに先天性風しん症候群が生じる可能性があるため、先天性風しん症候群の予防を図ることを目的に、風しん抗体価が十分でないことを確認できた産婦及び妊娠を希望する女性、妊婦と同居する家族に対し、風しん予防接種費用を助成しました。

■ 風しん抗体検査・風しん予防接種クーポン券事業（福祉保健部）

風しん抗体を持たない人が一定数存在するとされる年代の男性を対象に、風しん抗体検査及び定期予防接種を無料で実施しました。令和2年度は、昭和37年4月2日生まれから昭和54年4月1日までに生まれた男性で令和元年度に未実施の4,696人にクーポン券を送付し、抗体価検査実施者数は1,054件（実施率22.4%）、予防接種実施者数は319件あり、風疹の予防推進につながりました。

■ ひとり親家庭等自立応援プロジェクト事業（子育て支援部）

経済的に支援を必要とするひとり親家庭などの学び・仕事・住まい・生活を応援するため、「ひとり親家庭等入学支度金支給事業」【学び】、「ひとり親家庭等高等職業訓練促進費給付事業」【仕事】、「ひとり親家庭等スポーツ観戦・文化鑑賞事業」【生活】を行いました。また、離婚などによりひとり親となった家庭の住居確保を支援するため、住居移転費用と家賃の一部を補助する「ひとり親家庭等住居確保支援事業」【住まい】を実施し、ひとり親家庭などの自立を支援しました。

■ 子育て支援課相談室事業（子育て支援部）

家庭児童相談員、婦人相談員、母子・父子自立支援員を配置し、DV（ドメスティック・バイオレンス）など女性の困りごと、子育ての悩み、ひとり親家庭の支援に関する事など、どこに相談したらよいかわからない相談などに対し、専門の相談員が応じ、庁内及び関係機関と連携を図りながら、問題解決に向けたサポートを行いました。

また、「ネウボラみよし」により、児童虐待、DVの早期発見、早期対応による防止の強化を図りました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
こども医療費助成事業	123,124	国県支出金 20,526	102,598	対象者 7,321 人
子育て世帯への臨時特別給付金給付事業	68,341	国庫支出金 68,341		対象者 6,430 人 給付額 64,300 事務費 4,041
子育て応援金事業	63,475	国県支出金 63,450	25	対象者 6,345 人 給付額 63,450 事務費 25
ひとり親世帯臨時特別給付金給付事業	71,321	国庫支出金 71,321		対象 452 世帯 給付額 67,780 事務費 3,541
妊産婦健康診査助成事業	32,283	国県支出金 1,450	30,833	受診人数 308 人 妊婦健診受診延人数 4,643 人 産婦健診受診件数 446 件
妊婦歯科健康診査事業	491		491	受診人数 133 人
ネウボラみよし事業(妊娠・出産・子育て相談支援センター)	12,496	国県支出金 8,201	4,295	相談等延件数 7,678 件 (主な事業内訳) 妊婦訪問・来所 213 件 妊婦連絡 105 件 産後ケア事業(母乳育児相談助成事業)利用人数 72 件 産後ケア事業(ショート6人31日・デイ1人6日) 産前・産後サポート事業(母子保健推進員乳児訪問)件数 10 件 産前・産後ヘルパー派遣事業利用件数 28 人(延 378 件) 双子の集い 参加 10 組
不妊治療費助成事業, 不育治療費助成事業, 不妊検査・一般不妊治療費助成事業	19,334		19,334	不妊治療申請延件数 45 件 不妊検査・一般不妊治療申請延件数 35 件 不育治療申請件数 1 件 妊娠届出件数 36 件
乳幼児等予防接種費用助成事業	2,376		2,376	おたふくかぜ 396 件
地域子育て支援センター運営事業	50,165	国県支出金 31,502	18,663	年間延利用者数(親子総数) 〈公営〉 ・三良坂地域子育て支援センター 2,141 人 ・あそび工房 4,771 人 ・北部あそびの広場 408 人 〈民営〉 ・認定みゆきこども園地域子育て支援センター 165 人 ・ちゅうおう憩いの森地域子育て支援センター 284 人 ・太才町 DASAIYA 459 人 ・だっこルームみよし 3,264 人

第1節 まちづくりの主役である「ひとつくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
こどもの「遊び」 推進事業	12,640	その他 2,311	10,329	利用者数 11,649 人
保育の充実	1,435,437	国県支出金 331,689	1,103,748	定員 1,936 人 (公立 1,656 人, 私立 280 人) 月平均児童数 1,426 人 (公立 1,132 人, 私立 295 人)
東光保育所駐車場 等整備事業	2,632	起債 2,600	32	用地購入
川地保育所駐車場 整備事業	781	起債 700	81	用地測量ほか
保育所等改修事業 (布野保育所給水 管更新ほか)	8,159	起債 5,800	2,359	実施設計, 工事請負費
多子世帯保育 利用料等の 軽減	保育所	(69,068)	—	【国】 対象者 238 人 ※対象者：9月1日時点 ※事業費：9月の1ヶ月あた りの軽減額×12ヶ月分
		(35,273)	—	【単市】 対象者 124 人 ※対象者：9月1日時点 ※事業費：9月の1ヶ月あた りの軽減額×12ヶ月分
	幼稚園ほか	6,493	—	6,493 対象施設 6 施設 (幼稚園 1, 認可外保育所 5) 対象者 97 人 ※事業費は, 多子世帯保育料 軽減補助金交付額
副食費の 軽減	保育所	(11,610)	—	【国】 対象者 215 人 ※対象者：9月1日時点 ※事業費：9月の1ヶ月あた りの軽減額×12ヶ月分
		(35,586)	—	【単市】 対象者 659 人 ※対象者：9月1日時点 ※事業費：9月の1ヶ月あた りの軽減額×12ヶ月分
	幼稚園ほか	8,013	国県支出金 564	7,449 幼稚園 240 人 認可外保育施設など 42 人 ※事業費は, 副食費軽減補助 金交付額

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
病児・病後児保育事業	9,260	国県支出金 5,996 その他 263	3,001	病児・病後児保育室すくすく 開設日数 243日 延べ利用者数 98人 病後児保育室おひさま 開設日数 294日 延利用者数 57人
風しん予防接種費用助成事業	90		90	申請件数 24件
風しん抗体検査・風しん予防接種クーポン券事業	11,486	国県支出金 4,269	7,217	抗体価検査実施 1,054件 抗体価検査実施率 22.4% 予防接種実施者 319件
ひとり親家庭等入学支度金支給事業	3,280		3,280	高等学校等 56人 大学等 32人
ひとり親家庭等高等職業訓練促進費給付事業	2,450	国県支出金 1,567	883	給付件数 3件
ひとり親家庭等住居確保支援事業(旧事業含む)	7,151		7,151	補助人数 85人
ひとり親家庭等スポーツ観戦・文化鑑賞事業	56	その他 55	1	PIXAR「2分の1の魔法」 21世帯 51人
子育て支援課相談室事業	12,413	国県支出金 5,565	6,848	婦人相談件数 290件 (実人数 70人) (うち DV 相談 162件 実人数 21人) 児童家庭相談 360件 (実人数 167人) 母子・父子自立支援相談 260件 (実人数 209人)
計	1,963,747	626,170	1,337,577	

ウ 子育てを地域で支える環境づくり

施策の概要

市全体の子育て力の向上をめざし、子育てを地域全体で支援するという意識の醸成を図り、地域で子育てを支える環境づくりに向けて、事業を行いました。

施策の成果

地域ぐるみで子育てを支援するネットワークづくりに努め、子育て中の親や地域の子育て力の向上を図ることができました。引き続き、子どもたちと地域とのつながりを深める取組を推進します。

事務事業の実施状況

■ 子育てサポート事業（子育て支援部）

子育て中の保護者の負担軽減を図るため、子育てを支援してほしい「おねがい会員」と子育てを支援したい「まかせて会員」による相互支援活動を市が仲介し、地域ぐるみでの子育てネットワークを支援しました。

まかせて会員を増やし確実な支援を行うための講習会や、会員間の信頼関係を深め、相互支援活動の質の向上を図るための交流会をあわせて2回開催しました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一 般 財 源	
子育てサポート事業	4,714	国県支出金 2,020	2,694	活動件数 803 件 活動時間数 3,646 時間 会員数 909 人 (内訳：まかせて会員 176 人、おねがい会員 654 人、両方会員 79 人)
計	4,714	2,020	2,694	

(2) 教育 ～ふるさとが子どもを育て、子どもがふるさとを誇りにできるまち～

ア ふるさと三才を愛し、未来を創造する力を育む教育の推進

施策の概要

市費教員や学校支援員（教育支援員）の配置により、個に応じた学習指導や支援、ALT（外国語指導助手）を活用した実践的な英語でのコミュニケーション能力の育成に取り組みました。

施策の成果

少人数指導や個に応じたきめ細かい支援などにより、基礎的・基本的な学習内容の定着や学習意欲が向上しています。また、生徒指導上の課題も早期対応・解決が図られています。

事務事業の実施状況

■ 【個々の学び支援事業】（教育委員会）

＜市費教員＞

市費教員として、小学校においては、専科教員を1人、中学校では、数学科・外国語科において、チームティーチング等を行うために教員4人と非常勤講師4人を任用し、個々のニーズや学習の習熟の程度に応じたきめ細やかな指導を進めました。

複式学級のある小学校に理科支援教員を配置し、実験補助や理科指導の充実を進めるとともに、外国語指導員を配置し、第5・6学年について外国語科の授業を単式で実施するなど、外国語教育の充実に取り組みました。

＜学校支援員（教育支援員）＞

発達障害等のある特別な支援を必要とする児童・生徒や生徒指導上の課題を抱える児童・生徒など、通常の学級に在籍する特別な配慮が必要な児童・生徒への支援・指導の充実を図るため、校長が必要とする教育活動の支援を目的として、18校28人の学校支援員及び教育支援員を配置しました。

具体的には、通常の学級に在籍する、学習障害（LD）、注意欠陥／多動性障害（ADHD）、高機能自閉症などにより、生活及び学習上の困難を有する児童・生徒に対し、学習及び生活指導上のきめ細やかな支援や、いじめ、不登校、暴力行為、授業妨害など課題のある児童・生徒が在籍する学級に対する支援、放課後や長期休業中の学習支援などを行いました。また、教務事務補助員を1人配置し、担任などの印刷業務等に係る業務の軽減を図り、学校での教育活動の充実を図りました。

＜特別支援教育（障害児介助指導員）＞

特別支援教育では、各小中学校において、障害のある児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な指導及び支援を行い、能力や可能性を最大限に伸ばし、生きる力を培うことをめざして取り組んでいます。特別支援学級では、児童・生徒の学習や生活介助等のため、障害児介助指導員を22人配置しました。

■ 特別支援活動充実事業（教育委員会）

三次市こども応援センター教育相談員による就学相談や、県・市などの関係機関との連携により、適正な就学指導の支援体制の構築を図るとともに、就学指導委員会を計画的に開催し、幼児・

児童・生徒の教育的ニーズに応じた就学の実現に取り組みました。また、令和元年度から小学校1校で始めた「通級による指導」を新たに3校（自校1校、巡回による指導2校）加え、計4校の小学校において実施しました。

さらに、特別支援教育の専門家を派遣し、特別支援に関する指導を行う巡回相談の実施や特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーターの専門性の向上を図るための特別支援教育研修会を開催しました。

■ 英語力向上事業（教育委員会）

異文化を理解し尊重する態度や英語で楽しくコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をめざし、ALT12人を小中学校に配置し、小学校3・4年生の外国語活動、小学校高学年、中学校の英語の授業において、チームティーチング（複数の教師による授業）を行いました。また、小学校1・2年生を対象として、英語活動を行いました。ネイティブの発音を通して児童・生徒の英語によるコミュニケーション能力の向上を図っています。

また、令和2年度から、小学校では高学年の外国語科が教科（必修化）となりました。指導者がALTと対話モデルを見せたり、児童が学んだ英語を実際に使って、ALTとコミュニケーションをとったりするなど、ALTが活躍しています。さらに、授業以外でも、休憩時間、昼食時間、放課後にALTと児童・生徒ができるだけ一緒に過ごすなど、最大限にALTを活用しています。

■ がんばる中学生の英語学習応援事業（教育委員会）

本市では、平成28年度から、日本英語検定協会が実施する実用英語技能検定（英検）の受検機会の拡大による中学生の英語力及び学習意欲の向上を図ることを目的として、三次市立中学校に在籍する生徒の保護者に対し、検定料の全額を補助しています。

補助金があることで英検にチャレンジできる生徒が増え、英語への学習意欲が向上してきたなどの中学校外国語科教員からの意見があります。

令和2年度は、399人の児童・生徒が英検にチャレンジしました。また、文部科学省は中学生に求められる英語力として、中学校卒業段階で英検3級程度以上を達成した生徒の割合50%を目標としていますが、本市では、51.6%の生徒が目標を達成しています。

■ 個々の学習支援事業（教育委員会）

問題データベースやタブレット用ドリルを活用して、既習事項の復習、毎日のドリル学習、家庭学習を行うことで、個々の進度に合わせて学習を進めることができ、児童・生徒の基礎・基本の定着を図ることができました。

また、個々の学習の定着度を測り、学校における課題を明確にするとともに、指導内容や指導方法の改善・充実を図るため、全小中学校で令和3年1月に学力到達度検査を実施しました。小学校1・2年生は国語・算数、小学校3年生から6年生までは、国語・社会・算数・理科、中学校では国語・社会・数学・理科・英語について実施しました。

学力到達度検査の実施後には、個々の児童・生徒の課題克服のため、問題データベースやタブレット用ドリルを活用して、補充指導を実施しました。

■ 体験活動充実事業（教育委員会）

児童の自立心や主体性、より良い人間関係を形成する態度を育てるとともに、ふるさと三次の良さを実感させることを目的として、市内の小学校5年生を対象とし、日常と異なる環境での集団生活の体験や、地域の自然・文化・歴史に触れたり、地域の方々との交流や地域の防災活動に関わる

体験などを行っています。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、市内12校の小学校が1日のみまたは宿泊を伴わない方法で2日以上の実験活動を実施しました。実施した学校からは、活動に制限がある中でも、できる範囲で友達と協働する姿が見られたという報告や地域の方との交流や体験を通して、地域の支えや防災活動を行う意義を考えることができたという児童の声が聞かれました。

■ 【三次版学校ICT活用事業】（教育委員会）

＜小中学校ネットワーク整備事業＞

平成30年度から学校ICT整備事業に取り組み、計画的に整備を進めてきました。

令和2年度は、一人1台のタブレット端末の整備を行うとともに、安定・安全なインターネット利用が可能となるよう校舎内だけでなく、体育館等にもネットワーク環境を整えました。

＜ICT活用推進事業＞

ICT支援員2名が定期的に全学校を巡回し、児童・生徒や教職員へのICT機器の設定や操作指導、ICTを活用した授業づくりの支援を行いました。

各学校では積極的にICTを活用することができています。児童・生徒は、授業中に困ったことがあれば、ICT支援員に質問をしており、積極的にICT機器を使うことができています。教職員にとっては、授業中にICT機器の設定や操作をサポートしてもらえることで、児童・生徒への指導に集中することができます。また、授業以外では、ICT機器の効果的な活用方法や学習支援ソフトの活用方法等についてICT支援員から学び、ICT機器を活用した効果的な授業づくりに繋がっています。

■ オンライン家庭学習つなげる環境支援事業（教育委員会）

家庭において、タブレット端末を活用した学習や臨時休校中の学校と家庭との連絡、オンライン学習の実施など、学びを保障するための家庭の通信環境整備を早期に行うことを目的とし、申請された家庭へ1万円を上限とした補助を行いました。

■ 部活動指導員配置事業（教育委員会）

部活動は、生徒の自己肯定感を高めたり人間関係の構築を図ったりするなど、生徒の学びの場としてとても意義のあるものです。スポーツや文化活動などの専門的な知識や技能をもつ部活動指導員を配置することで、より一層の部活動の充実と教職員の「働き方改革」の推進をめざしています。

令和2年度は、バレーボール部2人、野球部2人、吹奏楽部1人、計5人の部活動指導員を5校に配置しました。顧問と部活動指導員の複数体制で指導する機会が多くなりましたが、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を徹底しながら部活動を実施することができました。配置した全ての学校から、「顧問の負担が軽減されている」という回答が得られています。

■ （新）学校図書館リニューアル事業（教育委員会）

児童・生徒の知的好奇心を増進し、様々な興味・関心に応える魅力的な学校図書館にするため、学校図書館リニューアル事業として、学校図書の実績、環境整備に取り組みました。

学校図書の充実では、社会の変化や学問の進展を踏まえ新しい情報に触れる環境の整備の観点や、学校図書館図書標準で定められている冊数の図書を整備できるように学校図書館図書の充足・更新を行いました。環境整備では、学校の図書館が、児童・生徒にとって、ゆっくり読書ができる心地よい空間、また調べ学習、一人学びができる空間となるよう整備を行いました。市内4校の小中学校に、蔵書を収納する書架や落ち着いて読書ができるためのマットや机、椅子等を整備しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
【個々の学び支援事業】市費教員	33,337		33,337	三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比 +6.5 ポイント
【個々の学び支援事業】学校支援員(教育支援員含む)	54,649		54,649	学校支援員及び教育支援員数 28 人
【個々の学び支援事業】特別支援教育(障害児介助指導員)	39,936		39,936	障害児介助指導員数 22 人
特別支援活動充実事業	4,216		4,216	オンラインによる研修会の実施 2 回(対象者 66 名) 通級による指導を増設(小学校)
英語力向上事業	63,999	その他 23,937	40,062	・三次市学力到達度検査(英語)における平均正答率の全国平均正答率比 +1.9 ポイント(中1) +2.1 ポイント(中2) ・小学校1・2年生の英語活動の実施率 100%
がんばる中学生の英語学習応援事業(英語検定料補助)	1,399		1,399	補助人数 399 人 中学校卒業時段階で英検 3 級程度以上の割合 51.6%
個々の学習支援事業	8,669		8,669	三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比 +6.5 ポイント
体験活動充実事業	838		838	体験活動が、より良い人間関係の形成につながったと感じる学校数 9 校/12 校
【三次版学校 ICT 活用事業】小中学校ネットワーク整備事業	350,746	国県支出金 165,678 起債 45,200	139,868	タブレット端末購入 4,041 台 Wi-Fi 整備工事
【三次版学校 ICT 活用事業】ICT 活用推進事業	4,783		4,783	ICT 支援員 2 人配置 (学校訪問回数約 158 回)
オンライン家庭学習つなげる環境支援事業	950		950	支援事業利用 95 件
部活動指導員配置事業	2,158	国県支出金 1,387	771	部活動指導員 5 人配置
図書館リニューアル事業	13,905	その他 500	13,405	・学校図書館図書標準における図書の充足率 90%以上が全体の 73 % ・環境整備 4 校実施
計	579,585	236,702	342,883	

イ 学校・家庭・地域の協働による教育力の向上と補完機能の強化

施策の概要

学校・家庭・地域が協働して地域の将来を担う子どもたちを育てるため、社会教育委員をはじめ、地域活動団体や地域住民が連携した組織づくり、土台づくりに向けた取組を行いました。

施策の成果

令和元年度に立ち上げた甲奴地区家庭教育支援チームでは、構成する5団体が連携して「子ども食堂」を開催しました。また、広島県教育委員会と連携して「あそびのひろば」を開催するなど精力的な取組を行いました。現在市内で唯一の組織として、先駆的なモデルとなっています。

事務事業の実施状況

■ 社会教育委員の活動（教育委員会）

学校・家庭・地域の連携について学び、家庭教育支援チームの育成・拡大、家庭教育支援の啓発活動を行うことを念頭において活動しました。甲奴地区家庭教育支援チームでは、令和2年8月11日に甲奴放課後児童クラブの児童や先生を招き、地元食材であるカーターピーナッツを活用した「子ども食堂」を開催するなど、様々な取組を行っています。

また、地域学校協働活動の一環として、コミュニティ・スクールについての研修会にも参加し、先進地の地域学校協働活動推進員の働きや、地域の活動について学びました。

■ 家庭教育の充実（教育委員会）

家庭教育の充実を図るため、学校や子育て支援センターなどで「親の力」をまなび合う学習プログラムを活用し、子育てのこと、親や地域の役割について意見交流を行いました。計12回行い、延べ237人が参加しました



子育て支援センターでの「親プロ」講座
「こんなときどうする」

■ 青少年育成講演会（教育委員会）

「生きる力」を育み、主体的に役割を果たすことのできる青少年を育成するため、中学生とその保護者を対象に青少年育成講演会「性と生を考える」を開催しました。講演会では、体と性についての正しい知識と、お互いを思いやりコミュニケーションをとることが、命と体を守ることにつながるということを学びました。



「性と生を考える」講演会 吉舎中学校

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
青少年育成講演会	31		31	中学生とその保護者を対象に講演会を実施 75人
計	31		31	

■ 高校生地域づくり実践プロジェクト事業（地域振興部）

市内高等学校の生徒が取り組む地域振興又は地域貢献に関する活動などを支援し、郷土に愛着と誇りを持つ人材の育成を目的に、各高等学校の取組に対して補助を行いました。

この事業を活用し、三次青陵高等学校は、昨年度に引き続き「足踏み式消毒液スタンド改良型」を製作され、市民ホールきりりをはじめ、8つの公共施設へ設置されました。また、塩町中学校区の小学校4校の6年生を対象に、プログラミング教室を開催しています。

三次高等学校では、補助事業には至っていませんが、2年生5グループによる様々なプラン作成に市職員も関わり「三高アクションプラン共有会」が開催され、令和3年度の取組に向けて発表されました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
高校生地域づくり実践プロジェクト事業	183		183	・三次青陵高校（足踏み式消毒液スタンド10台、4小学校プログラミング教室開催）
計	183		183	

ウ 活力と信頼の学校づくり

施策の概要

子どもたちが安全・安心に学校で学び、生活するために、生徒指導体制の確立と教育相談の一層の充実を図り、不登校対策や問題行動に迅速、適切に対応しています。

また、学校施設整備事業に取り組み、ソフト面・ハード面ともに、より良い教育環境の整備に努め、保護者、地域から信頼される学校運営を行いました。

施策の成果

子どもたちの教育環境の整備などを図るため、通級学級や特別支援学級新設に係る教室整備をはじめとした学校施設整備事業、スクール便運行事業及び児童生徒安全確保緊急メール事業を行いました。

不登校傾向の児童・生徒やいじめなどの早期発見・早期対応に向けて、学校、家庭、関係機関が連携し、不登校の解消やいじめ問題の解決に取り組みました。特に、小学校と中学校が連携を密にしたことで、中学校入学時に学校復帰できた生徒や、進路指導に取り組んだことで、進路希望をかなえることができた生徒もいました。

学校・家庭・地域が協働して小中一貫教育を推進し、中学校区全体で開かれた学校づくりを進め、児童・生徒の自己肯定感の向上や基礎的・基本的な学習内容の定着を図りました。

事務事業の実施状況

■ 学校施設整備事業（教育委員会）

特別な配慮が必要な児童・生徒が学習する通級学級及び特別支援学級の新設に係る教室整備をはじめ、多数の施設整備を進め、各学校の学習環境の整備を図ることができました。

■ スクール便運行事業（教育委員会）

学校統廃合に伴う遠距離通学の児童・生徒（一部保育所含む。）に対して、バス・タクシーを含め27路線のスクール便を運行しました。

■ 児童生徒安全確保緊急メール事業（教育委員会）

市内の児童・生徒の保護者に対し、不審者や災害などの発生情報を、電子メールを利用した一斉配信で速やかに伝達することにより、児童・生徒の安全確保を図ることを目的に緊急メール事業を引き続き行いました。学校においては、警報等の発表による臨時休校などの連絡や不審者情報、学校行事における情報伝達などに活用しています。

■ いじめ防止・不登校対策推進事業（教育委員会）

教職員を対象に、いじめの未然防止や不登校解消に向けた研修会を開催し、いじめを許さない風土づくりやいじめの早期発見・早期対応、中1ギャップの解消、不登校の未然防止に努めています。

また、総合質問紙調査を実施して、子どもたちの学級環境や社会性などを分析し、学級経営の充実や教師と子どもたちの信頼関係、子どもたち相互の好ましい人間関係を育てるために活用しました。

三次市こども応援センターや適応指導教室においては、教育相談員や青少年指導相談員、スクールカウンセラーによる相談体制の充実を図り、学校や子ども、その保護者からの就学や不登校などの不安や悩みに対して相談・助言を行い、悩み解消に向けての取組を進めました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

さらに、市内小中学校に、三次市スクールサポーターを派遣し、学校内外を巡回したり、教職員へ生徒指導対応などの助言を行い、安全・安心な学校づくりを推進しています。

■（新）小中一貫教育充実事業（教育委員会）

義務教育9年間を一体のものとしてとらえ、同じ中学校区の小中学校がめざす子ども像や教育目標を共有し、子どもたちの能力や個性を豊かに伸ばすために取り組んできました。これまでは「特色ある学校づくり創造事業」で進めてきましたが、「小中一貫教育」をより充実させるよう、取り組みました。

キャリア教育を軸とした、共通の教育課程「コアカリキュラム」と、各中学校区の特色を活かした「オリジナルカリキュラム」を全ての中学校区で行い、児童・生徒の成長につながる取組を進めるとともに、地域や児童・生徒の実態を踏まえた各学校の実践研究の推進や、各中学校区の取組をまとめた小中一貫カレンダーや小中一貫だよりなどを作成し、広く情報発信しました。



小中合同短歌交流会（布野中学校区）



校区一斉ボランティア清掃活動（三次中学校区）

■ 学校給食調理場整備事業（教育委員会）

「(仮称)三次市新学校給食調理場整備計画(案)」を策定し、令和2年10月にパブリック・コメントを行うとともに、市立保育所及び市立小中学校保護者を対象としたアンケートを実施しました。パブリック・コメント及びアンケートの意見を踏まえ、令和2年12月市議会定例会における議論を経て、複数年度で実施する事業として、総事業費及び年割額をあらかじめ明示する継続費についての補正予算措置が承認されました。

その後、(仮称)三次市新学校給食調理場建設に向けて、基本・実施設計業務を委託する設計者を選定するため、指名によるプロポーザルを実施し、公開ヒアリングや審査委員会を経て特定された設計業者と契約締結しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
学校施設設備等整備事業 《下段：繰越明許分》	173,427	国県支出金 55,796 起債 86,100	31,531	Wi-Fi 整備工事 八次小学校トイレ改修工事(1期) 川地中学校学校周辺整備工事ほか
	9,716		9,716	通級学級及び特別支援学級等空調機整備工事
調理場施設設備等整備事業	4,285		4,285	吉舎学校給食共同調理場(炊飯システム洗米機ポンプ交換修繕工事, 搬出口屋根設置等工事, 高圧受電設備修繕工事, 消毒保管機修繕工事) 八次学校給食共同調理場及び田幸学校給食共同調理場(食器食缶洗浄機コンベア修繕工事) 三次学校給食共同調理場(ルーフファン等修繕工事)
スクール便運行事業	118,990	国県支出金 2,445	116,545	路線数 27 路線 利用者数 280 人
児童生徒安全確保緊急メール事業	580		580	保護者の加入状況 116.8%
いじめ防止・不登校対策推進事業	19,071		19,071	「学校は楽しい」と、肯定的に答えている児童生徒の割合 85%以上(令和2年度 81.2%)
小中一貫教育充実事業	1,648		1,648	三次市学力到達度検査における市平均正答率の全国平均正答率比 + 6.5 ポイント
学校給食調理場整備事業	850		850	(仮称)三次市学校給食調理場整備計画の策定, 基本・実施設計者の特定及び契約締結
計	328,567	144,341	184,226	

(3) スポーツ・文化 ～学びたい気持ちを応援するまち～

ア “スポーツのまちみよし” の実現

施策の概要

「いきいき健康日本一のまち」の取組と連動した、市民誰もがスポーツを楽しめる環境づくり、スポーツ施設を活用した合宿や大会の誘致、また、指導者の育成を行う中で、競技力向上や交流人口の増加をめざしました。

施策の成果

住民自治組織や学校、企業、総合型地域スポーツクラブなどの関係団体と連携し、スポーツを通じた一体感の醸成と、ライフステージに応じたスポーツの実施、スポーツによる健康づくりへの意識の向上という効果が得られました。また、スポーツ推進委員による自主事業も実施されるなど、指導者の資質向上をめざした取組も展開されました。新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの大会やイベントが中止になる中、対策を講じながら複数の事業が開催され、市民のスポーツへの関心度や活力向上が図られました。

事務事業の実施状況

■ おうちチャレンジデー（うちチャレ）事業（地域振興部）

新型コロナウイルス感染拡大防止のためチャレンジデーを中止し、おうちチャレンジデーに参加しました。コロナ禍での運動啓発として、ポスター、チラシ、ホームページのほか、Facebook（フェイスブック）やLINE（ライン）、Twitter（ツイッター）などSNSも活用した情報発信を行い、参加者数の増加を図りました。

また、おうちチャレンジデー終了後も、出前講座や定期運動指導「楽トレ」を実施し、スポーツの習慣化に向けて、年間を通じて啓発活動を行いました。



ストレッチボールで体をほぐして姿勢を整えよう
(出前講座)



楽トレ

■ 三次市スポーツ推進委員協議会活動（地域振興部）

三次市スポーツ推進委員の資質の向上を目的とした「研修部会」、役割や活動内容などの情報提供を行うための「広報部会」、ニュースポーツの普及促進や自主事業の開催を目的とした「事業部会」という3つの専門部を軸に活動を行い、テーピング講習や市民を対象とした「体力測定会」の開催等を実施したほか、委員の活動PRとして会報誌を発行しました。



テーピング講習（研修部会）



会報誌（広報部会）



みんなのできる体力測定会
（事業部会）

■ （新）女子野球タウン認定事業（地域振興部）

一般社団法人全日本女子野球連盟が公募した、女子野球を通じて地域のシティプロモーションやまちづくりを推進する事業で、本市は、女性が住みやすく、活躍できるまちをめざし女子スポーツを推進していくため、女子野球タウンに申請し、令和2年12月21日に認定されました。

今後、女子野球の合宿・大会誘致を継続的に行いながら、地域とも連携を図り、地域活性化につなげ、本市に女子野球の文化を築いていきます。

■ 各種スポーツ大会の開催（地域振興部）

三次市体育協会やスポーツ少年団、市内各地域が行う市民の体力づくりの取組や市民が進んで参加できる多種多様なスポーツ大会を支援しました。このことにより、参加機会の拡大と市民スポーツ活動の振興につなげることができました。

京都で行われる全国大会への出場をかけた広島県高等学校駅伝競走大会では、感染予防策として、これまでの駅伝コースから、みよし運動公園陸上競技場のトラックに変更しての実施となりましたが、男子の部40チーム、女子の部28チーム（男女あわせて約400人）が参加しました。

区 分	内 容	参加者数
スポーツ大会	名称 男子71回・女子37回広島県高等学校 駅伝競走大会 月日 令和2年11月8日	男子：40チーム 女子：28チーム
	名称 県民体育大会出場	63人
スポーツイベント	名称 おうちチャレンジデー（うちチャレ） 月日 令和2年10月、12月	—
スポーツ・文化芸術報奨	名称 世界大会・全国大会出場	全国大会 20人

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
男子 71 回・女子 37 回広島県高等 学校駅伝競走大会	900		900	男子：40 チーム 女子：28 チーム
県民体育大会出場	89		89	63 人
世界大会・全国大会 出場	200		200	全国大会 20 人
計	1,189		1,189	

■ 十日市水泳プール附属棟改築工事（地域振興部）

十日市水泳プール附属棟（更衣室，トイレ，倉庫棟）の老朽化が著しく，衛生面で利用者の健康等への影響も危惧されるため，改築工事を実施し快適で安全に利用できる環境を確保しました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
十日市水泳プール 附属棟改築工事 《繰越明許分》	31,707	起債 31,700	7	十日市水泳プール附属棟（更衣室，トイレ，倉庫等）の改築
計	31,707	31,700	7	

イ スポーツを通じて子どもの夢を応援！

施策の概要

プロスポーツの試合の観戦やプロ選手を招いてのスポーツ教室の開催など、あこがれのトップアスリートと身近に接し、指導を受けることで、技術の向上だけでなく、スポーツに対する関心を高め、夢をもって前向きに進んでいく子どもを育てます。

施策の成果

プロ選手によるスポーツ教室では、技術指導だけでなく、トップアスリートと身近に接することで、スポーツに対する意識がより高揚しました。また、プロスポーツ応援事業では、ハイレベルの技術を目の当たりにする中で、子どもたちは感動を覚え、自分の夢を育むきっかけとなりました。

57年ぶりとなる本市でのオリンピック聖火リレーの実施に向けて、多くの人に関心をもってもらえるよう、オリンピック聖火の展示事業を行ったところ、子どもから高齢者まで幅広い世代の来場があり機運醸成につながりました。また、コロナ禍におけるオリンピック関連事業の実施に際し、徹底した感染防止策のあり方について、実績を積み上げることができました。

事務事業の実施状況

■ 「トップアスリートによるスポーツ教室」の開催支援（地域振興部）

広島ドラゴンフライズの選手・コーチによるスポーツ教室のほか、アンジュヴィオレ広島のコーチによる年間を通しての女子サッカースクールの開催を支援し、子どもたちがより高度な技術を修得できる機会を設けました。

スポーツ少年団や中学生の子どもたちがトップアスリートから指導を受け、競技力の向上と意識の高揚が図られました。



トップアスリートによるスポーツ教室

■ 「プロスポーツ応援事業」の開催支援（地域振興部）

みよし運動公園陸上競技場において、女子サッカーリーグ公式戦を開催し、575人のアンジュヴィオレ広島応援隊が観戦に訪れました。



女子サッカー公式戦開催
(みよし運動公園陸上競技場)

■ 「バドミントンPremiumサーキット2020」の開催支援（地域振興部）

広島県立みよし公園で5日間にわたり「バドミントンPremiumサーキット2020」が開催され、その支援を行いました。

全国から9チームが参加し、シングルス、ダブルスともに熱い試合が繰り広げられました。今後、実行委員会において、大会や合宿の誘致を行う中で、競技の普及を図り、女子スポーツを応援していきます。



バドミントンPremiumサーキット2020

■ 東京2020オリンピック聖火リレー機運醸成事業（経営企画部）

＜東京2020オリンピック聖火を活用した地方創生事業＞

1年延期となった東京2020オリンピック聖火リレーの実施に向けて、継続的に機運の醸成を図るため、令和2年12月19日に三次もののけミュージアムにおいて、オリンピック聖火の展示を行いました。あわせて本市出身で、1964年東京オリンピックにおいて最終聖火ランナーを務められた坂井義則さんの軌跡展を開催しました。世界に一つのオリンピック聖火を一目見ようと、市内外から約800人の来場があり、聖火リレーに向け機運を盛り上げることができました。



聖火展示事業の様子

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
三次地区女子サッカープロジェクト	305	その他 305		参加者 延 210 人
広島ドラゴンフライズによるバスケットボールクリニック	100	その他 100		参加者 48 人
アンジュヴィオレ広島応援隊	257		257	観客数 575 人
バドミントンPremiumサーキット2020	421		421	参加者 32 人
東京2020オリンピック聖火リレー機運醸成事業	491		491	機運醸成イベント 参加者 約 800 人
計	1,574	405	1,169	

ウ 三次の文化・芸術の発展継承と創造

施策の概要

新型コロナウイルスの感染が拡大し、文化・芸術施設では休館や利用制限が余儀なくされ、当初見込んだ鑑賞事業や発表事業を実施できませんでした。コロナ禍における実施可能な取組を模索し、文化・芸術の継承に努めました。

開館15年目を迎えた奥田元宋・小由女美術館では、常設展示室の照明設備のリニューアルを行いました。

三次の子どもたちの健やかで心豊かな成長を願う真田一幸さんの寄附を財源として創設した「真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業」では、子どもを対象としたスポーツ・文化団体に対する補助金の交付や、スポーツや文化を通して子どもたちの活動を支援するために用具の購入を行いました。

施策の成果

奥田元宋・小由女美術館の常設展示室については、照明設備のリニューアルによって、展示作品が見えやすく、色が鮮明になり、来館者の知的好奇心をひき立てることができるようになりました。三次市民ホールにおける自主事業は、市民の意見を反映させるため、市民代表者、指定管理者、専門的ノウハウを有する者及び行政関係者の4者による「三次市民ホール事業運営委員会」が行いました。

コロナ禍において、実施可能な取組を考えて工夫し、市民の芸術文化への関心を深めること、また、サポートボランティアとの共働を推進することができました。

事務事業の実施状況

■ 美術館の運営とネットワーク事業（教育委員会）

美術館の運営は、4館とも指定管理者制度を導入し、効率的な管理・運営を行いました。各館の個性を活かした常設展や魅力的な企画展、ロビーコンサートなどのイベントが行われました。

美術館の入館者は、奥田元宋・小由女美術館が43,531人、はらみちを美術館は5,713人、美術館あーとあい・きさは3,951人（吉舎歴史民俗資料館含む）、三良坂平和美術館は5,368人でした。

■ 奥田元宋・小由女美術館常設展示室リニューアル事業（教育委員会）

常設展示室の照明をLED化するための改修工事を実施しました。照明設備を大きくリニューアルし、これまで以上に作品が映える空間となりました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
奥田元宋・小由女美術館LED照明交換工事	73,925	起債 73,900	25	常設展示室 元宋展示室1・2・3 小由女展示室1・2 休憩コーナー
計	73,925	73,900	25	

第1節 まちづくりの主役である「ひとつづくり」

■ 魅力あるみよしスポーツ・文化振興事業の展開（教育委員会）

スポーツ・文化みよし夢基金の運用益を財源の核として、スポーツ・文化の新たな事業を展開するための補助金を交付しました。

＜スポーツ・文化振興事業＞

（単位：千円）

事業名	主催者	日程・会場	事業内容	事業費	内補助金額
ドライブインシアターIN 三次	一般社団法人三次青年会議所	令和2年8月8日(土) 三次市民ホールきりり 駐車場	きりりの外壁をスクリーンに、小学生とその家族を対象とした、新型コロナウイルス感染対策に配慮した映画鑑賞会	469	200

■ 真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業（教育委員会）

子どもを対象としたスポーツ・文化の振興及び育成を図るため、58 団体に真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金を交付しました。また、みよし運動公園で使用する用具を購入しました。

＜真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業補助金＞

（単位：千円）

団体種別	補助対象活動	件数（件）	補助金額
スポーツ系	団体運営	47	3,724
	大会等開催	4	326
文化系	団体運営	7	515
	大会等開催	1	69
計		59	4,634

＜真田一幸スポーツ・文化子ども育成事業用具整備＞

（単位：千円）

用具種別	品名等	件数（件）	購入金額
スポーツ系	サッカーゴール4, フットサル用ゴール2, ピッチングマシン1	7	2,659
計		7	2,659

■ 三次市民ホール自主事業支援事業（教育委員会）

三次市民ホール5周年記念として、令和2年12月5日（土）に「花ノ本寿襲名披露記念 日本舞踊・神楽公演」を開催しました。

育成事業として、みよしKIRIRI児童合唱団は「平和と希望のコンサートⅢ」や東京2020オリンピック聖火展示のオープニングに出演しました。人形劇団きりりは、きりりYouTubeチャンネルで新作の配信を行いました。

NPO 法人きりり倶楽部は、主管事業のティーブレイクコンサート・楽楽ゼミナール・アートスタート事業を開催し、その中でも「ティーブレイクコンサート for キッズ」は、きりりYouTubeチャンネルで配信しました。

第1節 まちづくりの主役である「ひとづくり」

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
三次市民ホール 自主事業支援事 業	24,697		24,697	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回三次名人会 505人 ・倭-YAMATO-2020in 三次 302人 ・花ノ本寿襲名披露記念 日本舞踊・神楽公演 366人 ・昭和のうたコンサート 126人 ・「きりりり倶楽部」育成事業（ティールイクコンサート for キッズ） ・みよし KIRIRI 児童合唱団育成事（平和と希望のコンサートⅢ，東京 2020 オリンピック聖火展示オープニング出演） ・人形劇団きりりり育成事業（新作公演をきりりり YouTube チャンネルで配信） ・公共ホール現代ダンス活性化事業 C プログラム（北尾巨ダンス公演，ダンスワークショップ） ・開運なんでも鑑定団 出張！なんでも鑑定団 in 三次（お宝応募 131 通，観覧希望 631 通，入場者 150 人）
計	24,697		24,697	

■ 子ども文化芸術ふれあい事業（教育委員会）

「スポーツ・文化みよし夢基金」を財源として，平成28年度から実施しており，令和2年度はコロナ禍でも実現可能な取組を行いました。三次きらきらコンサート（三次市吹奏楽演奏会）では，参集イベントが出来ないため，生徒たちが奏でる様子を録画し放送することで，成果発表を実現させました。



コンサートの様子を収めた DVD のケースカバー

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
子ども文化芸術 ふれあい事業	712	その他 712		<ul style="list-style-type: none"> ○小・中学生芸術鑑賞事業 ・市内美術館等の見学鑑賞 252人 ○三次きらきらコンサート（三次市吹奏楽演奏会） 184人
計	712	712		

エ 歴史・伝統・文化の継承と発展

施策の概要

文化財は、地域の歴史や文化などを正しく理解し、これからのまちづくりを考えるための基礎となる貴重なものです。その文化財を守り、伝えることで、地域に誇りをもって生活できるようになることをめざし、事業に取り組みました。

施策の成果

指定文化財の保護のため、史跡寺町廃寺跡整備事業として発掘調査を行いました。新たな情報や成果を得ることができ、小学生の学習や生涯学習の場として、地域の歴史や文化に触れる機会を提供しました。また、文化財について広く周知するために小冊子を作成し、市内の小学校を中心に配布しました。

辻村寿三郎人形館展示支援事業では、企画展を開催し、県内外から多くの来館があり、本市ゆかりの作家の芸術を発信しました。

事務事業の実施状況

■ 文化財保護事業（教育委員会）

文化財を後世に残していくために、地域の協力を得ながら、国や県の機関と情報交換を行い、次の文化財について調査しました。

- ・ 史跡寺町廃寺跡 周辺遺跡分布調査
- ・ 広島県天然記念物迦具神社の大イチョウ 樹勢等状況調査
- ・ 広島県天然記念物仁賀のシラカシ群 保護状況調査
- ・ 三次市天然記念物 状況調査

■ （新）重要文化財幡山家住宅保存修理事業（教育委員会）

幡山家住宅は、江戸時代中期に建てられたと考えられますが、構造等は古い形式で建てられており、また後世の改変も少なく、この地域の特徴を示すということから昭和 53 年に重要文化財として国の指定を受けています。

灰塚ダム建設に伴い、現在の場所に移築復原修理を行ってから 20 年以上が経過し、屋根茅葺は全体的に苔が生え、経年による破損が生じるようになったため、屋根葺替や小修理（土間たたきなど）を行い、文化財を保存し後世に継承する保存修理事業を行っています。



修理中の様子（幡山家住宅）

■ 文化財副読本の作成事業（教育委員会）

文化財に関する学習啓発のため、副読本として利用できる小冊子「三次市の文化財」を作成しました。シリーズ6冊目として、重要文化財のうち木造神像や木造阿弥陀如来坐像などについてわかりやすくまとめ、市内小中学校に配布しました。

■ 史跡寺町廃寺跡整備事業（教育委員会）

文化庁や広島県教育委員会文化財課と協議を行いながら、第8次発掘調査を実施しました。重要な建物跡である金堂跡の調査を行い、初めて北階段を確認するなど、新しい情報や成果を得ることができました。また、調査中には現地見学会を開催し、県内外から多くの方々に本市の歴史・文化を体感していただきました。



第8次発掘調査写真（金堂北階段）

■ 辻村寿三郎人形展示支援事業（教育委員会）

辻村寿三郎人形館の運営をする一般社団法人 寿三郎みよしに対して補助金を交付し、企画展として「阿久利姫生誕 350 年記念」「王女メディア」が開催されました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
重要文化財幡山 家住宅保存修理 事業	25,523	国県支出金 16,590 起債 8,000	933	現地見学会 56 人
史跡寺町廃寺跡 整備事業	5,381	国県支出金 2,690	2,691	発掘調査の実施、関係機関協議 第8次発掘調査現地見学会 142 人
辻村寿三郎人形 展示支援事業	8,000		8,000	阿久利姫生誕 350 年記念 63 人 王女メディア（前期） 1,453 人 王女メディア（後期） 2,264 人
計	38,904	27,280	11,624	

オ 学ぶ気持ちを応援する生涯学習の推進

施策の概要

市民の学ぶ気持ちを応援するため、学習機会の提供や、図書館活動充実、老朽化した学習施設の改修工事を行いました。

施策の成果

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、休館やサービスの一部休止を余儀なくされました。そうした中でも図書館を安心して利用いただけるよう、徹底した感染症対策を行い、貸出方法を工夫して、市民の学びたい気持ちを支援しました。また、中央館では工事による長期休館をしましたが、市民の利用要望に応えるため、日時を限定し、移動図書館車による貸出を行いました。

事務事業の実施状況

■ 図書館活動（教育委員会）

図書館の蔵書について、各館の容量や市民ニーズを勘案し充実を図りました。また、利用促進のため、近隣市町との広域利用を行いました。子どもの読書活動への支援として、保育所・小学校への定期配達による貸出や、小中学校への職員派遣、見学の受入れを行いました。また、教育委員会主催の「子ども司書養成講座」にも協力しました。加えて、年間を通じて各館で企画した特集展示を行いました。読書通帳 100 冊達成表彰、受験応援しおりの配布や読書に関するクイズなどの親しみやすい取組を通して、気軽に立ち寄れる図書館をめざしました。

三次市重要文化財の「往来本」は、一部デジタル化しホームページ上で誰でも閲覧できるよう公開しています。令和2年度は、海外からも利用申請がありました。

■ 生涯学習センターの改修（教育委員会）

布野生涯学習センターを利用しやすい施設にするため、調理室改修、トイレ洋式化などのリフレッシュ工事を行い、生涯学習センターとしての機能の充実を図りました。

<図書館利用状況>

図書館名	個人登録数（人）		貸出冊数（冊・点）		開館日(日)	来館者数(人)
	令和元年度末	令和2年度末	令和元年度末	令和2年度末	令和2年度末	令和2年度末
三次市立図書館	34,287	34,816	221,505	148,818	250	86,063
三次市立君田図書館			16,204	13,237	284	3,425
三次市立布野図書館			23,902	19,576	284	4,135
三次市立作木図書館			15,159	12,734	283	4,096
三次市立吉舎図書館			21,179	18,611	272	6,268
三次市立三良坂図書館			31,123	27,441	284	6,320
三次市立三和図書館			21,175	17,125	284	4,172
三次市立甲奴図書館			20,926	20,583	284	2,474
合計	34,287	34,816	371,173	278,125	-	116,953

<図書資料>

図書館名	蔵書数（冊・点）	
	令和元年度末	令和2年度末
三次市立図書館	156,561	156,165
三次市立君田図書館	15,403	15,443
三次市立布野図書館	14,775	15,220
三次市立作木図書館	19,356	19,318
三次市立吉舎図書館	17,110	16,793
三次市立三良坂図書館	18,092	17,636
三次市立三和図書館	34,685	34,724
三次市立甲奴図書館	29,215	29,247
合計	305,197	304,546

（単位：千円）

区分	事業費	財源内訳		成果指標など
		特定財源	一般財源	
図書館事業	100,232		100,232	自主事業参加者（延人数） 講演会など 90人 本のメッセージカードコンクール 767人 出前講座 382人
三次市立図書館 空調改修事業	46,134	起債 46,100	34	RC造・S造 2階建て 1,570㎡
布野生涯学習セ ンター改修工事	30,315	起債 28,800	1,515	RC造2階建 1,030㎡ （調理室改修・トイレ洋式化工事等及 び監理業務）
計	176,681	74,900	101,781	

カ 国際交流の推進

施策の概要

海外の姉妹・友好都市などとの国際友好親善及び国際協力推進並びに国際的な人材の育成及び市内在住外国人への支援を図るため、一般財団法人三次国際交流協会の運営を支援するとともに、連携し事業を推進しました。

施策の成果

一般財団法人三次国際交流協会と連携し、市内在住外国人支援を行うとともに、国際理解の促進を図りました。

一方、当初予定していた子どもたちの海外友好・交流都市との訪問・受入れなどの交流事業は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、安全性を考慮し事業中止となりました。

事務事業の実施状況

■ 国際交流推進事業（地域振興部）

一般財団法人三次国際交流協会と連携し、在住外国人が暮らしやすい環境づくりを推進するため、市内及び近郊の外国人居住者を対象とした生活相談を、通年で週に1回開催しました。言葉や生活習慣の違いから生じる各種相談が年間61件ありました。

また、令和3年3月には市民に国際文化に触れていただくため世界文化体験イベントを開催しました。中国や韓国の国際衣装体験や、姉妹・友好都市の紹介パネルを設置し、国際文化の理解促進を図りました。

(単位：千円)

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
国際交流推進事業	712		712	外国人生活相談 61件 国際衣装体験 13人
計	712		712	

(4) 男女共同参画・平和・人権 ～みんなが協力してつくる、人にやさしく住みよいまち～

ア 男女がともに活躍できる環境の充実

施策の概要

三次市男女共同参画基本計画（第3次）に基づき、男女共同参画社会の実現に向けて、市民を対象とした啓発事業の実施と女性保護対策の充実などに取り組みました。あわせて、女性の活躍推進のため、セミナーや啓発事業を行い、子育てしながら働きやすい環境づくりへ向けた取組を行いました。

施策の成果

三次市男女共同参画基本計画（第3次）の計画期間が令和2年度で終了することから、計画推進の総括を行い、三次市男女共同参画基本計画（第4次）を策定しました。男女共同参画の理解の浸透と女性活躍の機運醸成を図りました。

事務事業の実施状況

■ 男女共同参画推進事業（地域振興部）

三次市男女共同参画基本計画（第3次）に基づき、男女共同参画の理解の浸透と女性活躍の機運醸成を図りました。男女共同参画や女性活躍推進の取組について、広報みよしをはじめ、市ホームページ、チラシなどにより、啓発に取り組みました。あわせて、三次市女性連合会の活動を支援し、講演会や研修会を通して男女共同参画を推進し、事業の発展に努めました。

■ （新）三次市男女共同参画基本計画（第4次）策定（地域振興部）

三次市男女共同参画基本計画（第3次）の検証や男女共同参画に関する市民・事業所のアンケート調査結果を踏まえ、市民や事業者の代表・学識経験者による三次市男女共同参画審議会での審議のほか市内の男女共同参画推進委員会などで議論を重ね、令和3年3月に、「三次市男女共同参画基本計画（第4次）～一人ひとりがしあわせな社会をめざして～」を策定しました。

本計画は、令和8年度までに「社会全体として男女平等である」と感じている市民の割合50%を総合指標に掲げ、市民一人ひとりが、それぞれのライフステージの各段階で、自らの選択によって仕事と地域活動を含めた暮らしの両方において充実した人生が送れるよう、誰もが個人として能力を発揮する機会が確保され、ともに活躍できる社会づくりになることを基本的な考え方としており、市・市民・事業者がそれぞれの役割を担いながら協働して取り組むことなどを盛り込みました。

（単位：千円）

区 分	事 業 費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一 般 財 源	
男女共同参画推進事業	2,251		2,251	男女共同参画審議会 3回開催 三次市女性連合会男女共同参画講演会 参加者 約 141人
三次市男女共同参画基本計画（第4次）策定支援業務	1,969		1,969	男女共同参画基本計画策定 （計画書・概要版）
計	4,220		4,220	

イ 平和を願う思いの継承と市民意識の高揚

施策の概要

被爆者や戦争体験者の高齢化に伴い、原爆と戦争の記憶が風化していくことが懸念されています。そうした中で、戦争体験の継承と平和の尊さの次世代への継承、そして、恒久平和の願いを市民へ呼びかける事業を行いました。

本市では、市民が身近なことから平和に関心を持ち、考えられるよう、広島東洋カープの協力を得て、「平和の灯ろうコンテスト」にカープ球団選手から平和メッセージをいただき展示を行いました。

施策の成果

戦争の悲惨さと、原爆の非人道性を語り継ぎ、恒久平和の願いを次世代に伝えるため、「平和のつどい」、「平和の灯ろうコンテスト」、「平和折り鶴募集」などの平和推進事業を実施し、多くの市民が取り組むことで、恒久平和の願いの浸透を図ることができました。

さらに、核実験への抗議活動や、米軍の低空飛行訓練に対する中止要請は、世界恒久平和を願う市民メッセージとして発信しています。平和を願う思いが継承されるよう、啓発活動を通じて、市民一人ひとりの意識の高揚に引き続き取り組みます。

事務事業の実施状況

■ 平和推進事業（地域振興部）

広島平和記念公園に手向けられた折り鶴を活用する「折り鶴に託された思いを昇華させる取組」として、解体折り鶴を利用した「平和の灯ろうコンテスト」を行い、市内の福祉施設や小中学校の児童・生徒などから243点の応募がありました。広島東洋カープの選手からは、灯ろう用紙に平和メッセージをいただき、応募いただいた全ての作品とともに三良坂平和美術館に展示を行いました。

また、本市も加盟している「平和首長会議」などと連携を取りながら、情報の収集を行い、核兵器廃絶を訴えました。平和への思いを込めた折り鶴の募集には、市民から13,611羽が寄せられ、平和への願いとともに広島平和記念公園の「原爆の子の像」に手向けました。

広島・長崎に原爆が投下された8月6日、9日には、市民に原爆犠牲者の追悼の黙とうを呼びかけ、庁舎をはじめとした公共施設において半旗の掲揚を行いました。

さらに広報みよしでは、被爆75周年を記念して、より多くの人に平和について深く考えていただける機会となるよう、三次市在住の2人の被爆者の体験談と平和への想いについて特集を組みました。

■ 平和祈念事業の開催（地域振興部、三良坂支所）

市民一人ひとりが平和について考え、次世代にその尊さを伝える契機の一つとして「平和のつどい MIYOSHI2020」を三良坂平和公園で開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、規模を縮小して「平和の灯ろうコンテスト」の表彰と、被爆75周年を記念して「平和への想い（一筆箋）」作品の表彰を行いました。応募いただいた灯ろう約300基は、「75 祈・平和」という文字を描き、その様子をドローンで空撮し、三次市から平和を発信しました。



平和のつどい MIYOSHI 2020

■ 関連事業への取組（地域振興部）

市民から寄せられた米軍機低空飛行訓練目撃情報の件数は、延べ16日、35件でした。米軍岩国基地への空母艦載機移転の影響などにより、目撃件数は増加傾向であり、今後も「米軍機による低空飛行の騒音被害に関する関係自治体の協議会（廿日市市・北広島町・安芸太田町・三次市）」と連携を図り、注視していく必要があります。

北方領土返還運動については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市内ショッピングセンターでの街頭啓発活動を自粛し、市役所本庁でのポスターの掲示やチラシにより啓発を行いました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
平和推進事業	68		68	平和の灯ろうコンテスト 応募数 243点 三良坂平和美術館 平和の灯ろうコンテスト作品展 7月10日から7月26日 折り鶴募集 13,611羽
平和祈念事業	308		308	平和のつどい MIYOSHI2020 (8月1日 / 三良坂平和公園) 参加者 約200人
計	376		376	

ウ 「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発

施策の概要

広島法務局三次支局，三次人権擁護委員協議会などと連携を図りながら，互いの違いを共に認め合い，支え合う，「みんな違う・みんな同じ」の人権尊重の普及啓発を行い，人権尊重のまちづくりを進めました。

施策の成果

「人権の花」運動や人権映画上映会「ヒューマンライツ・ドライブインシアター@みよし」を通じて，お互いを思いやる心や命の大切さを感じていただくことができました。

小中学生による人権ハート絵かがやきメッセージや書などの作品制作も学校単位で取組が行われ，展示の場を提供することで，人権尊重意識の普及高揚を図りました。

事務事業の実施状況

■ 人権映画上映会「ヒューマンライツ・ドライブインシアター@みよし」（地域振興部）

例年，人権週間に合わせて実施している「ひとかがやきフェスタ」は，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催を見送り，その代替イベントとして，人権週間に合わせて，12月4日，5日に人権映画上映会「ヒューマンライツ・ドライブインシアター@みよし」を開催しました。

人権尊重の理念について理解を深め，互いに認め合い，ともに生きるひとつづくり・まちづくりについて，映画「若おかみは小学生！」を通して考えていただきました。人との出会いやつながり，お互いを思いやる心や命の大切さを感じられる内容であり，多くの市民の参加が得られ，「人権」を身近に感じていただき，効果的な啓発を行うことができました。

■ 人権ハート絵かがやきメッセージ（地域振興部）

市内小中学校の児童・生徒が人権への思いを表現した「人権ハート絵かがやきメッセージ」を市内ショッピングセンター及びみよしまちづくりセンターで展示しました。

■ 「人権の花」運動（地域振興部）

植物を育てることで，子どもの情操をより豊かにし，命の大切さや相手への思いやりという人権を尊ぶ気持ちを育むことを目的に，広島法務局三次支局及び三次人権擁護委員協議会との共催で，三次小学校，吉舎小学校，甲奴小学校，小童小学校の4校にヒヤシンス栽培セットを贈呈しました。

人権の花贈呈式において，児童に対して，人権イメージキャラクターを用いて「人権」について呼びかけを行うことで，人権に対する関心を高め，理解を深めることができました。

■ みよし日本語教室（地域振興部）

市内在住の外国人が日常生活を営む上で必要となる日本語能力を習得できるよう，「みよし日本語教室」を開催しました。日本語学習支援スタッフ13人の協力により，毎週火曜日と木曜日に開催し，受講生33人（令和2年度末現在）の学習を支援しました。

また，日本語学習支援スタッフの増員と支援スタッフのレベルアップに力を入れるため，初心者向け講座とレベルアップ講座の日本語学習支援スタッフ養成講座を実施しました。

引き続き，誰もが暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めます。

■ 各種相談事業の充実（市民部、地域振興部）

外国人が日常生活や地域、職場において各々の個性や能力を発揮しながら活躍できる社会づくりを推進するため、一般財団法人三次国際交流協会の協力を得ながら、外国人生活相談を毎週1回開設しました。外国人の方の窓口での諸手続きなどに対応するため、音声翻訳11言語、テキスト翻訳30言語の中から選択した言語に自動で翻訳し、タブレット端末に音声やテキストを出力するAIアプリ「Voice Biz」（ボイスビズ）の導入を行いました。

また、弁護士による「市民無料法律相談」を毎月2回開設したほか、消費生活相談や人権相談など、市民が安心して相談できる体制の充実に努めました。

新型コロナウイルス感染症の増加に伴う緊急事態宣言期間中においては、感染拡大を防止するため対面から電話相談に変更したうえで、市民の相談に継続して対応を行いました。

■ 女性保護対策事業（子育て支援部）

配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）に基づく暴力被害女性の保護を図るため、相談員を配置して対応しました。婦人相談では、DV（ドメスティック・バイオレンス）などの深刻な問題のほか、広く女性が抱える諸問題の解決のため、相談員による面談、電話相談を行いました。

（単位：千円）

区 分	事業費	財 源 内 訳		成果指標など
		特 定 財 源	一般財源	
人権映画上映会 「ヒューマンライ ツ・ドライブインシ アター@みよし」	380	国県支出金 380		開催日：12月4日、5日 場 所：布野運動公園 参加者数：約250人
人権ハート絵かが やきメッセージ	25		25	人権ハート絵展示数：166点 （小学校18校、中学校12校）
「人権の花」運動	105	国県支出金 89	16	【実施校】市内小学校 4校 参加児童数 267人
みよし日本語教室	616		616	開催日：毎週火曜日・木曜日 日本語学習支援スタッフ 13人 日本語学習支援養成講座 初心者向け講座受講者 19人 （うち新規登録者10人） レベルアップ講座受講者 15人
各種相談事業	4,221	国県支出金 911	3,310	無料法律相談（月2回） 114件 消費生活相談 183件 外国人生活相談（週1回） 61件 生活相談 74件
【再掲】 女性保護対策事業	2,370	国県支出金 1,154	1,216	婦人相談件数290件（実人数70人） （うちDV相談162件 実人数21人）
計	7,717	2,534	5,183	

